

令和2年度学校自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心
-------------------	--

今年度の重点目標	1 学力の向上と進路実現 (1) 授業規律と学習習慣の確立 (2) 力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3) キャリア教育の充実 2 自主自律と協調性の育成 (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 (3) 質の高い部活動の実践 3 学校の魅力化 (1) コースの発展・充実 (2) 「地域探究の時間」の発展・充実 4 学校における安全確保の徹底 5 業務改善の取組の推進
----------	---

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

評価項目	具体項目	年 度 当 初		評 価 結 果			
		目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学力の向上と進路実現	授業規律と学習習慣の確立	○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取り組んでいる。 <指標> 教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」の評価AとBと合わせて70%以上。生徒の家庭学習時間1日平均1時間30分以上。生徒アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AとB合わせて70%以上。	○おおむね授業規律はよくなってきているが、授業に集中できていない生徒も見受けられる。また、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒もわずかにいる。 ○定期考査の前だけ家庭学習をするという生徒が一部に見受けられる。課題提出の取り組みは、進んできているが、授業の予習や復習を含めた家庭学習の取り組みが不十分な生徒が若干みられる。	○評価方法を周知徹底する。平常点も重視されることから、教師が授業開始時間を必ず守り、チャイムとともに授業が始まるよう生徒に指導するとともに、教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習を含め家庭学習の指示を具体的に示し、提出物についてもこまめに確認する。また、学習についてこれない生徒・気になる生徒については課外や面談等を行い、関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる環境づくりを行う。そのために、学年会・教科会・支援会議等で情報交換を行い生徒理解に努める。			
	キャリア教育の充実	○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> 生徒アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AとB合わせて1年で70%、2年で80%、3年で90%以上。	○アンケート結果では「明確な進路目標を持っている」生徒の割合が75%前後で推移している。しかし、目標達成への道筋がイメージできず、具体的な行動に移せない生徒や、目標を下げてしまう生徒の姿も見られる。 ○生徒が学びに向きあうまでに時間がかかっている。	○1年次から生徒の視野を広げ、具体的な将来設計を描くことができるような働きかけを行う。 ○それぞれの時期における指導テーマを明確に生徒に伝え、進路面談を繰り返し、他分掌との連携をとりながら進路指導を行う。 ○生徒が身につけた力について、SMTで確認しながら指導する。			
自主自律と協調性の育成	基本的な生活習慣の確立	○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 <指標> 遅刻者数の減少。頭髪・服装指導対象者数の減少、問題行動発生件数の減少。	・昨年は、遅刻が増加し遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取組もうとしている。	・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。			
	生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成	○どの生徒も生徒会活動や学校行事に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。 ○どの生徒も学校行事を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 <指標> 生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて85%。また、生徒アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AとB合わせて85%以上。	○縦の横のつながりが希薄で、執行部・育英祭実行委員・応援団・各委員会活動も含め、生徒会活動に主体的に参加する生徒もいるが、全体としての意識は薄い。○遅刻者多数に歯止めがかからない。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が全体像をイメージできておらず、連携がまだまだであり、協調性もとほしい。	○執行部と委員会、部活動が連携し目標を見える化することで全校生徒への取組を促す。挨拶運動放課後の教室点検、部室一斉清掃等を行う。部活単位で遅刻者数を集計。 ○新聞部発行の新聞に生徒会コーナーを作ってもらい連絡や意識改革を促す。 ○実行委員会や執行部会の回数を増やすことで、全体を把握させ、全校生徒への指示を目的も含め明確にし、全校生徒が活動できるようにする。			
	質の高い部活動の実践	○自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。 <指標> 県大会優勝6部、全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ150名	○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。 ・部活動参加率全体92%(昨年度4月末)88%(今年度4月末) 県大会優勝6部(個人含む)、全国大会への出場は8部、延べ142名	○現在88%(4月末)2年生を中心に未加入者への声かけをする。(9月末に調査し生徒総会で促す) ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。ホームページの掲載を積極的に依頼する。 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行う。			
学校の魅力化	コースの発展・充実	○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬する中で、意識レベルを高め、部活動はもとより、学校生活において範となる生徒を育成している。 ○特進クラスは、上級学校への進学等、進路実現を果たしている。 <指標> 学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行なう生徒が増えている。また、国公立大学10%以上、私立大学30%以上を志望させる。就職率100%の進路実現を達成させる。	○昨年度の国公立大学現役合格数は3名で昨年度より1名減であった。 ○普通コースでは、進路面談等きめ細かい指導が行われている。入試制度の変更に対応しながらも、安易な進路決定をしない指導がなされている。	○特進クラスの充実に取り組み、国公立大を希望する生徒を増やし、意識付けと実力養成を図る。また、他のクラスでも私立大学の全体的な難化を考慮し、きめ細かい指導の充実を図り、高い意識を持たせ魅力あるクラスにする。 ○新教育課程実施に向け、充実した教育課程の実現を図る。			
	「地域探究の時間」の発展・充実	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。 <指標> 事前事後のアンケート調査において、地域に関する関心が高まっており、またコミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力が向上している。	○「地域探究の時間」は6年目を迎え、新入生についても入学時にすでに学習に対する意識が高まっている。 ○1年生は「地域探究入門」、2年生は「地域探究の時間」、3年生は個別の自主活動にて地域についての知識関心を高める学習プランができており、特に2年生の活動についてはこれから始まる本格的な活動に対し意欲的な姿が見られる。	○1年生の入門活動では次年度の本格的な活動を意識させ、主体的に活動に関わる指導を行う。 ○2年生の活動では外部講師との連絡を密にとり、生徒の主体性を引き出せる活動を計画する。また、教員と講師とのそれぞれの役割を自覚し効果的な探究活動を展開する。 ○3年生の自主活動では、地域で行われるボランティア活動に積極的に参加できるよう広報を充実させる。また、進路選択の場面でも地域貢献の視点を盛り込んだ指導を行う。			
学校における安全確保	学校教育活動における安全確保の徹底	○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <指標> いじめ防止対策計画に沿ったいじめ防止アンケートを年3回実施。学校における事故等の減少。	○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。 ○様々な個性を持った生徒がおり、一人一人の個性に応じた「学び」が保障される必要がある。	○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を実施し、全員の受講をめざす。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的実施し、組織的な対応を図る。			
業務改善の取組の推進	○各種委員会・分掌における業務内容の見直し ○時間外業務の縮減	○部活動の適切な休養日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図られている。 ○月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。 <指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。 月当たりの時間外業務が平成29年度比25%以上削減している(令和元年度達成)。	○各部活動の活動時間は減少したが、一部には大会前の遠征等により超過する部活動もあった。 ○時間外業務については、29年度比28%の削減となっている。 ○年間の時間外業務360時間を超えている教職員は3割程度。	○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各が行い、活動の効率化を図る。 ○昨年度に削減提案のあった事業などを取り止めるなど、一層の業務改善に取り組む。 ○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間をシステムにより客観的に日々計測する			